



「本気」 ～いっぺんつかんでほしいもの～

坂村真民氏の詩集「念ずれば花ひらく」の中に、次のような詩があります。

本 気

本気になると 世界が変わってくる  
自分が変わってくる  
変わってこなかったら まだ本気になっていない証拠だ (中略)  
本気な仕事 ああ 人間一度 こいつを つかまんことには

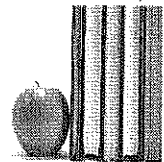
本気になると、目の色が変わってきます。筆者自身も、先日の同窓会で、「受験のとき、目を  
つり上がらせて頑張っていたよな。」と友人らから言われました。周囲も当然そうだったのです。  
今こそ、目尻も垂れ、年相応の寛容さを漂わせているかもしれませんが、若い時、一度はこの  
「本気」をつかまんことには、始まらないと思います。

受験指導で授業をしても、「本気」になった生徒は違います。授業に向かう構え、眼力。  
当然、授業の合間の休憩時間の取り組みも違います。当然、職員室には質問にやってきます。  
なりふりを構うことなく、今こそ取り組んでいきませんか。教員はいつでも待っています。

小論文ワンポイントアドバイス : 「言葉の定義」を行う、という視点

小論文では、「定義」ということが重要です。人文系では、むしろ  
言葉の「定義」ができれば、相応の文章を書くことができるといっても  
過言ではありません。

例えば、「挨拶」:「挨」「拶」の語源から、「相手に胸襟を開いて」「迫  
っていく」という意味です。相手に迫るほどの思いがなければ挨拶とは  
言えない、ともいえますね。「整理整頓」の意味。「整理」は整然と並  
べておくこと。「整頓」は整理分類して、私たちが引き出す時にすぐに  
取り出せるほどの状態にしておくこと、と区別することができます。



「初心」とは、まったく初々しい段階に戻ることではない。むしろ、熟練の段階性に基づいた  
進んだ視点に至って、改めて新しい光をあてる、といった意味だと思われます。(「風姿花伝」)

「正直」とは、今では「嘘をつかず本当のことを言うこと」だろうが、儒教では「肉親を守り  
通すこと。」だという。たとえ、罪を犯した者であっても肉親については守り通す、ということ。  
道義的な定義と相反する場合もあり、言葉を用いる際、考慮すべきことは多いのです。

今後の計画: 受験に向かう観点 : 以下の3点を中心として

- ★ **平日補習** 今後、原則毎週月・金曜日実施。「センター試験対策」を譲らない姿勢を持ち、  
過去問題を中心に解法・演習していきます。センター対策はその他の受験にも役立ちます。
- ★ **土曜講座** 3年生は原則実施。(詳細は、第6号参照。)これも「センター試験対策」中心。  
特に、国公立大学をめざす人、全回とも出席し、積極的に質問にも来てください。
- ★ **学習合宿** 8/6(月)～ 8/8(水)の期間、久米山ふれあいロッジで希望者の合宿。合宿では、1  
日約 10 時間の学習時間確保。みなさんにとっては、おそらく「非日常」の世界の体験。この  
「非日常」を「日常」的な事(ルーティン)に変容させることです。なお、学校では自習室を開  
放し、8/1(水)～ 8/10(金)まで夏の学習室として学習します。「夏を制する者は受験を制す。」